

編集後記

●今回のキャッチアップには、民間企業と共同研究を行った「レシプロ式汚泥かき寄せ機」をとり上げました。くさび形のスクレーパで沈殿池の汚泥を効率よくかき出し、しかも維持管理がしやすく丈夫というこの新技術は、各地の下水処理場で採用されており、その実績からさらに信頼性が増しています。

●メッセージは、この春から札幌市清田区の区長になられた前札幌市建設局理事の石倉昭男氏に「この世に残るもの」と題して執筆していただきました。石倉区長はこれの中で、気象変動や大地震の発生などに都市のインフラは対応できないのではないかと警鐘を鳴らすとともに、「この世に残るものは、変化に柔軟に対応できるものである」というダーウィンの“種の起源”の一節をとって、下水道事業もこの変化に対応できなければいけないと締めくくっています。

●今号では、今年度から神戸市建設局の下水道河川部長に就任した井上博明氏をゲストに迎えて、本機構の谷戸専務理事（現日本下水道事業団理事）と行った「対談」を掲載しました。井上部長は、神戸市が推し進める下水道の高機能化は、あくまでも基本的な下水道の役割を果たしたうえでの話

としながらも、まだまだ開発される余地が下水道には残っていると、今後の展開に期待を示されていました。是非ともご一読ください。

●エンジニアリングリポートは、今、下水道界で最も大きな課題といえる「下水道事業におけるストックマネジメント手法の導入に関する調査研究」と、事業の民間委託を円滑に行うための「民間委託時の自治体管理業務支援システムに関する研究」をわかりやすくまとめました。

●トピックスは、さまざまな新技術が導入されて、世界中から注目を集めている東京電力(株)の神流川発電所を取材し、その施設の概要と導入された最新鋭の技術を紹介いたしました。世界最大級の揚水式発電所の迫力を感じてください。

●ユーザーリポートは、市街地でのシールドトンネル工事で採用事例の多くなってきた「省面積立システム」をとりあげました。共同研究の開始から16年目を迎え、さらに進化を遂げた省面積立坑システムについて、東京都水道局が工事を行っている発進立坑現場を取材し、工事の概要と採用した要素技術についておうかがいしました。参考になれば幸いです。（編集委員一同）

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、藤川征宏本機構資源循環研究部研究員の長女藤川仁菜（にな）ちゃん（2歳）です。

この写真は、梅雨の晴れ間に千葉県習志野市の香澄公園に家族で遊びに行った時のものだそうで、久しぶりの水遊びにとってもご満悦です。平日は保育園で園児達と存分に戯れている仁菜ちゃんですが、それでもまだ遊び足りないのか、最近覚えた「遊ぼっ!」という言葉を武器に、毎週末家族を外に連れ出す活発な女の子です。これから暑くなるので、両親は次の新たな親水公園を求めて、飛び回っているこの頃だそうです。

題 字

（財）下水道新技術推進機構会長・葉山莞児
（大成建設株式会社代表取締役会長、（社）日本土木工業会会長）の揮毫によるものです。

季刊 下水道機構情報

Vol. 2 No. 5

2008年7月〈夏季号〉

平成20年7月18日発行 発行者 葉山莞児
編集者 松井大悟
企画者 谷戸善彦

編集委員：栗原 秀人／中里 卓治／森島 嘉浩／秋葉 竜大／
高瀬 行廣／斉藤 実／岩下 真理／鳥海 弘／御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512